

## 神話の道(氷上姉子神社)コース

大高散策路 約3.5Km

JR大高駅(市バス)―折戸下車―30m―浜鳥居跡―30m―浜宮跡―300m―寝覚の里―300m―沓脱島跡―30m―玉根社―10m―熱田神宮大高齋田―200m―元宮―氷上姉子神社―200m―久米家墓地―200m―石神白龍大王社―200m―春江院―300m―大高城跡―200m―秋葉社―300m―八幡社―300m―JR大高駅

### ① 浜鳥居跡 (緑区大高町神戸)

氷上姉子神社の「一の鳥居」があった場所である。氷上姉子神社は、熱田神宮の創祀と関わりが深く、古代の英雄日本武尊(やまとたけるのみこと)の妃として草薙劔(くさなぎのつるぎ)を守護した宮簀媛命(みやすひめのみこと)を祀っている。「一の鳥居」は第一番目の鳥居の意味で、ここから先が神域であることを示す。海辺に建てていたことから、通称「浜鳥居」と呼ばれていた。

### ② 浜宮跡 (緑区大高町砂畑)

古代、この付近が「あゆち潟」と呼ばれた海であったところ、熱田神宮からは氷上姉子神社へ舟で訪れ、この近くの一の鳥居付近に上陸した。そして、この宮に参拝し、心身を清めた。

### ③ 寝覚の里 (緑区大高町中ノ島)

明治四三年熱田神宮の角田忠行宮司が日本武尊と宮簀媛命の故事にまつわる碑を建てた。この地は昔は海で、潮が打ち寄せて朝な朝なに海潮の波音に寝覚められたというロマンスから、碑文には「大高の里なるこの寝覚めの地は千八百年の昔、我武(わぶ)天皇(日本武尊)の火上の行在所に居られし時、朝な朝なに海潮の波音に、寝覚し給ひし方なる故にかくいい効はせるものならん云々。」と書かれている。

### ④ 沓脱島跡 (緑区大高町神戸)

古代、ここが海辺に近く「沓脱島」(くつぬぎしま)といわれた。名付けられた説には、日本武尊が東征のおり、立寄られた時に沓(履物)を脱いで休息されたという説と、「火上山」全体を島とみたと、ここから先が氷上姉子神社の神域になるので、参拝者が沓を脱いでいた場所であったという説がある。

### ⑤ 氷上姉子神社 (緑区大高町火上山)

熱田神宮の摂社で、祭神は尾張国を開拓した天火明命(あめのほあかりのみこと)の末裔、国造(くにのみやつこ)乎止与命(おとよのみこと)の女で宮簀媛命。媛は日本武尊が亡くなった後、日本武尊から授かっていた草薙劔を御霊として守護し、晩年、一族の齋場だった熱田の地に劔を奉安した。これが熱田神宮の始まりとなることから当社は熱田神宮の元宮といわれている。社殿は媛の死後、仲哀天皇四年(195)に媛の住んでいた館趾(現在の末社元宮)に創設、持統天皇四年

(690)に現在地に遷座された。火上山の一带に広大な境内があり、貞享三年(1686)五代將軍綱吉が社殿を造営。現在の社殿は、明治二六年(1893)熱田の別宮八剣宮の本殿を移築、拝殿は名古屋離宮の仮賢所を昭和八年(1933)に移築したものであったが、昭和六一年(1986)に拝殿ほか改築された。古より大高の氏神として敬われている。境内には元宮、神明社、玉根社の末社がある。玉根社は一説には古墳の跡と言われ、少彦名命(すくなひこなのみこと)が祭神で医薬、酒造りの神様でこの地では信仰が厚い。かつては眺望のよい景勝地で巨木老樹の繁茂せる社叢があったが国道23号線で一部開発され昔の面影はない。例祭は毎年3月最終日曜日に五穀豊穡を願う神楽を奉納する「太々神楽」(だいだいかぐら)、五月六日に鷹の絵馬を奉納する頭人祭(とうにんさい)がある。

### ⑥ 氷上姉子神社の御田植祭と抜穂祭

氷上姉子神社境内の熱田神宮大高齋田で、毎年六月第四日曜日御田植祭が古式豊かに執り行なわれている。この地では昭和八年(1933)から休みなく続けられており、明治以降戦後まで熱田神宮齋田であった名古屋市瑞穂区の御神田が都市化によって田植えが出来なくなり、今ではこの御田植祭がとって代わり、揃いの衣装で田植歌に合わせて田舞を奉納し田植えをしている。また抜穂祭(ぬいぼさい)は九月二八日に取り入れる祭りが行われ、収穫米は熱田神宮の本宮はじめ各社の年間の祭典用神饌として供えられる。

### ⑦ 久米家墓地 (緑区大高台)

氷上姉子神社の神職であった久米家の墓地がある。久米家の子孫は日本武尊の東征に従軍し、宮簀媛命に仕え、媛の死後は神霊を祀り、代々社務として仕えた。久米家の文書はこの地方の貴重な文化遺産である。

### ⑧ 石神白龍大王社 (緑区大高町石神)

氷上姉子神社本殿の鳥居近くにある階段を下り、国道23号線のガードをくぐり、北に向かう坂道を上ると、丘陵地の中腹に大きな楠と桜の大木がある石神白龍大王社(いしがみはくりゅうだいおうしゃ)が見える。祭神は石神白龍大王で祠と塚の石を祀っている。昔ここに塚がありへびが住んでいて、塚の土や樹木を構うと「たたり」があり、村民が白龍さんを祀り鎮めたといういい伝えがある。また「埋もれる神の碑出て時雨かな」の句碑があり、近くの石神遺跡の石室の一部と思われる石が置かれている。

### ⑨ 朝苧社 (緑区大高町東姥神)

氷上姉子神社の境外末社で、祭神は火上山老婆霊(ひがみうばのみたま)で氷上の里の地主の神で宮簀媛命の母神と伝えられている。俗に老姥神様といわれ、乳の出ない婦人が祈って効験があり、近在では「乳の神」として尊嵩してい

る。また朝苧社は麻苧社とも思われ織物の神社でないかといわれている。

### ⑩ 大高山春江院 (緑区大高町西向山)

国の登録文化財指定。曹洞宗の寺で、弘治二年(1556)の創建。大高城主水野大膳が父の和泉守忠氏菩提のため、尾張横須賀長源寺四世峰庵玄祝を開山とし、和泉守を開基としたのにはじまる。父の法名「春江全芳禅定門」により春江院と号す。本尊は多宝如来。石畳みの参道を上がって「大高山」の山門をくぐると大きな「不許葷酒入山門」の石碑が目に入る。正面に本堂、右手には大きな庫裡、鐘楼があり、書院、不老閣、茶室、観音堂、弁財天堂等が広大な林叢の境内にある。本堂は文政十三年(1830)再建。正面八間半、奥行八間、単層入母屋造、本瓦葺である。鐘楼は慶応元年(1865)に再建された。書院は有松絞の開祖竹田庄九郎宅にあったもので、江戸時代参勤交代の諸大名や公家の休息に当てられていた。明治十二年(1879)に当山に移築され、襖絵は狩野永秀画「しらさぎ」が描かれている。末寺には明忠院、東昌寺、薬師寺、弥陀寺がある。墓地には当地の文人餘延年(よえんねん、通称山口九郎左衛門、号墨山、篆刻、俳人、1745~1819)、山口耕軒(やまぐちこうけん、墨山の子、私塾時習館学頭、1767~1837)、下村丹山(しもむらたんざん、画家、一六羅漢奉納、1804~1867)、下村実栗(しもむらみつよし、丹山の子、号哉明、久田流の茶人、1833~1916)の墓がある。

### ⑪ 大高城跡 (緑区大高町城山)

昭和十三年国の史跡指定。大高城跡は寛文村々覚書によると標高20m、東西106m、南北32mの台形の丘で四方に二重の濠があったが、現在は土居、内堀とも形態は殆ど認めがたい。古くは天白川の北方は年魚市潟(あゆちがた)といわれ、この地からの景観は絶景であった。築城年代は不詳であるが永正年間(1504~1521)の頃に土岐氏の守護代出の花井備中守が、天文・弘治(1532~1557)の頃には知多郡東浦の水野忠氏・大膳父子が居城した。桶狭間の戦いの直前に鳴海城主山口左馬之助に攻められて落城し、今川方の鶴殿長助の支配下となったが、織田信長が鷲津・丸根の砦を築いて対抗した。松平元康(のちの徳川家康)が若年で兵糧入れに成功したのは有名。桶狭間の戦いの前哨戦として鷲津砦、丸根砦の戦いがあったが、元康は丸根砦を陥落させた後、大高城で休息した。今川義元が討死した後、元康は岡崎に帰り廃城となった。その後元和二年(1616)志水忠宗(1574~1626)徳川義直公の母である相応院の兄が尾張藩の家老(一万石)として城跡に居宅を設け、明治三年(1870)に廃した。本丸西端に鶴岡八幡宮を勧請した城山八幡社があり、寛文十年(1670)に志水甲斐守が寄進した石燈籠がある。

### ⑫ 秋葉社 (緑区大高町高見)

祭神は火之迦具土神(ほのかぐつちのかみ 迦具突地神)で創建は不詳。社寺明細帳には寛政十二年(1800)の勧請となっているが、常夜灯の銘には明和七年(1770)になっている。昔から大高は火事が多く村民が恐れていて、防火の神である秋葉社を最も賑やかなT字路のこの地に祀ったのではないかといわれている。このあたりに江明市場(よめちば)が立ち、宝永(1704~1710)の頃から馬市や諸商いが春秋に二回三十日間ずつ行われ、享保十七年(1732)頃から六斎市(月に六度、日を定めて市を開く)が許された。この付近を単に「辻」と呼び大高の中心で、名残りとして毎年十月第一日曜日の大高祭の際には、ここに傘鉦車、松車が集まり、出発、解散する。

### ⑬ 八幡社 (緑区大高町町屋川)

JR大高駅西300mの所にあり、祭神は応神天皇(おうじんてんのう)神功皇后(じんぐうこうごう)、玉依姫(たまよりひめ)。社伝(原田家)によれば火高見城(大高城)主花井備中守が当所と大高城内に鶴岡八幡宮(治承四年1180源頼朝が宇佐神宮を勧請)を勧請した。江戸時代は、武士は城山八幡社(大高城跡)に参り、庶民はここ八幡社を参ったと言われる。当社は広大な神域をもっていたが大高小学校(現大高北小学校)の敷地にあてられたりした。元は村社で氷上姉子神社に次いで建物の規模は大きく、社殿、拝殿、末社、石鳥居などがある。徳川家康が桶狭間の戦い後、永禄四年(1561)祈願した記録がある。昭和五六年(1981)に本殿を、平成十一年(1999)以降、社務所、拝殿、祝詞殿、水手舎、玉垣の新改築工事が行われ、平成十四年(2002)九月に竣工奉祝祭が執りおこなわれた。境内の北隅に大高小学校にあった奉安殿が修復されて残っており、現在は大高町に関する史料を保管している。

### ⑭ 大高駅 (緑区大高町鶴田)

明治十九年(1886)三月一日県内で武豊、半田、亀崎、緒川、熱田とともに最初に設けられた鉄道駅。当時は単線で駅舎はなくホームが1本あるのみで、切符の販売は駅前の個人宅に委託されていた。明治二二年(1889)に東海道線が全通し、駅舎はいつ整備されたか解らないが、明治四〇年(1907)には複線になり利用者は徐々に増えた。昭和十年(1935)大日本紡績が誘致され、専用線を設置し駅舎が改築された。昭和二八年(1953)には念願の電化が完成し煤煙から解放され、昭和三七年(1962)に新幹線工事につき橋上駅となり、それまで踏切を通過して大高町中心の駅西側と駅舎のある東側を往来していた不便さがなくなった。昭和五三年(1978)に高架化され、駅前には整備され現在の駅に作り直された。

参考史料： 緑区誌、緑区の史蹟、大高町誌、緑区の史蹟と文化財、名古屋の史蹟と文化財、日本姓氏歴史人物事典、熱田神宮とその周辺、愛知県の歴史散歩